

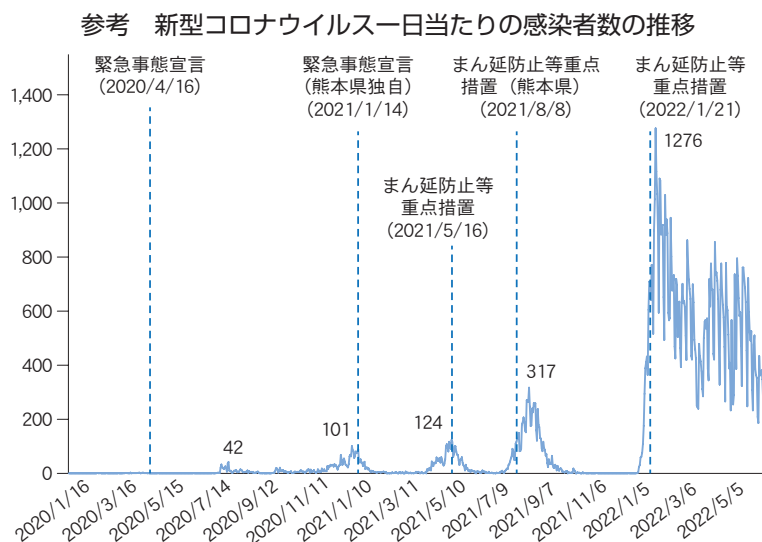
物価上昇で支出全般の見通しは引き締めめの傾向 一方、国内旅行などは支出意欲高まる

～第47回熊本の消費予報調査－2022年5月調査～

はじめに

当研究所では、毎年5月と11月に熊本県内在住の女性を対象として、今後半年間における「収入」「支出」等の調査を行っている。本稿では2022年5月に実施した調査の結果を基に、今後の消費マインドの見通しを明らかにする。また、自由コメントに対し、テキストマイニングを実施し、どのような関心や不安がマインドに影響を与えているのかを探っていく。

第47回となる今回は、3年ぶりにコロナ禍に伴う行動制限のない5月の大型連休直後の調査であった。なお、一日当たりのコロナ感染者数の推移は以下の通り。感染者数は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されていた時期と比べ高位で推移しているが、コロナ対策の方針は、感染対策から経済循環へ舵が切れつつある状況であった。

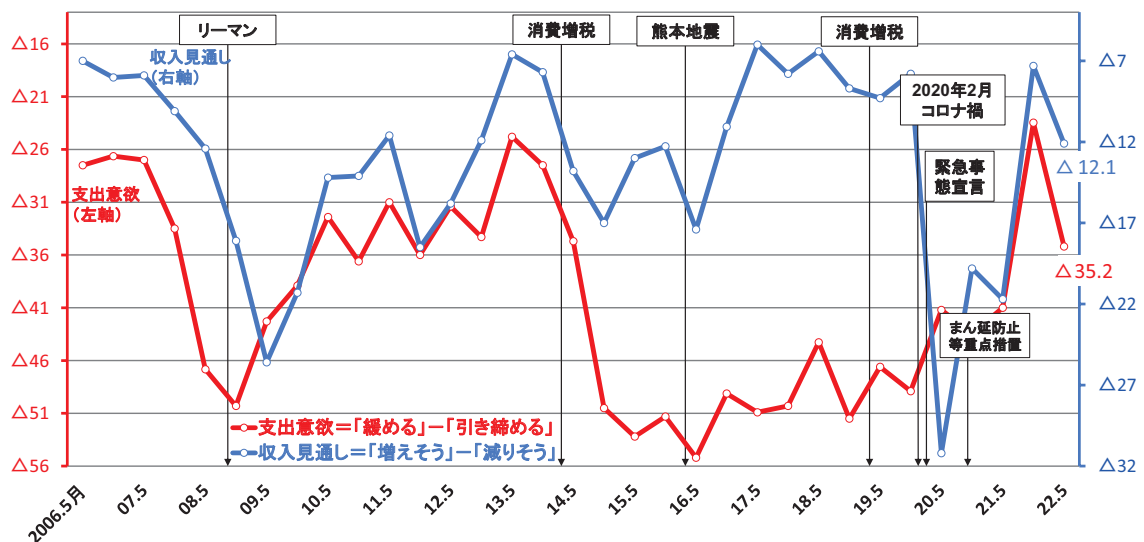


【調査の概要】

1. 調査対象：
熊本県在住の20歳以上の女性
(20代～60代以上の各年代で108人ずつ)
2. 調査期間：
2022年5月19日～5月20日
3. 調査方法：
調査会社登録モニターへのネット調査 (調査会社：(株)マクロミル)
4. 有効回答：540人

図表1 今後の見通しDIの長期推移

収入見通しDI (「緩める」-「引き締める」と支出意欲DI (「増えそう」-「減りそう」)



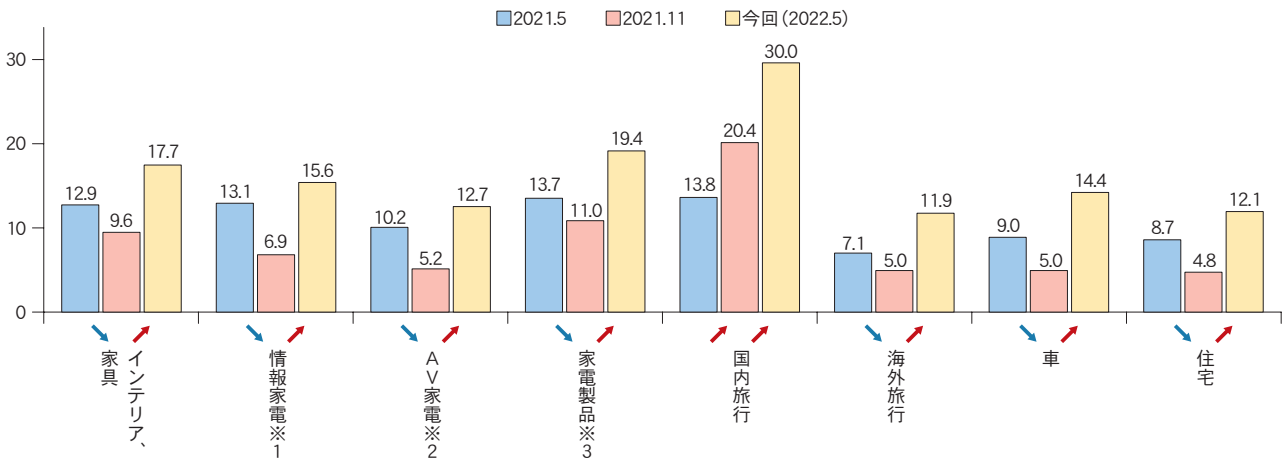
1 日常・非日常的な支出の見通し

(1) 非日常的な支出の見通し

➤ 全項目で購入意欲が高まっており、特に国内旅行の意欲が旺盛。

非日常的な支出の見通しについては、全項目で高まっている（図表2）。依然として続くコロナ禍や、物価上昇の影響を受けずに高まっており、改善が見られる。

図表2 旅行や高額商品の今後の購入予定



※1 情報家電とは、パソコン、パソコン関連機器、携帯電話（スマートフォン）など。
 ※2 AV家電とは、テレビ、ブルーレイレコーダー、デジタルカメラ、ビデオカメラなど。
 ※3 家電製品とは、冷蔵庫、洗濯機、食洗機、エアコンなど、情報家電とAV家電以外の電気製品。

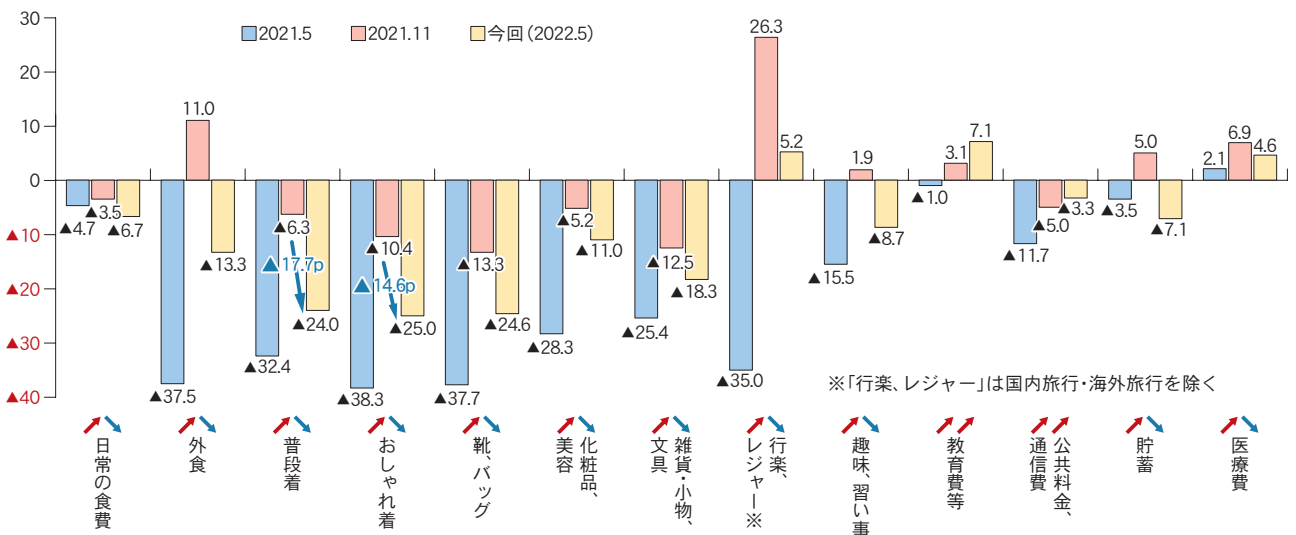
(2) 日常的な支出の見通し

➤ ほとんどの項目で見通しは悪化。衣類など不要不急な品目の悪化が目立つ。

非日常的な支出の見通しとは対照的に、ほとんどの項目で、支出見通しのDIは悪化（図表3）。特に「普段着」▲24.0（前回比▲17.7ポイント、以下p）、「おしゃれ着」▲25.0（前回比▲14.6p）等、不要不急な商品の減少幅が大きい。物価上昇に備え、支出を抑えたい意向と思われる。

「外食」や「行楽・レジャー」の減少幅も大きい。これは前回調査（2021年11月）の反動を受けた結果と考えられる。

図表3 日常的な支出の今後の見通しDI（「増やす・増えそう」-「減らす・減りそう」）



※「行楽、レジャー」は国内旅行・海外旅行を除く

2 今後の見通しDI

(1) 収入見通し

- 今後半年間の収入見通しは▲12.1と、前回と比べて4.8p低下。
- 低下の要因は、企業の業績低下や残業代の減少などと考えられる。

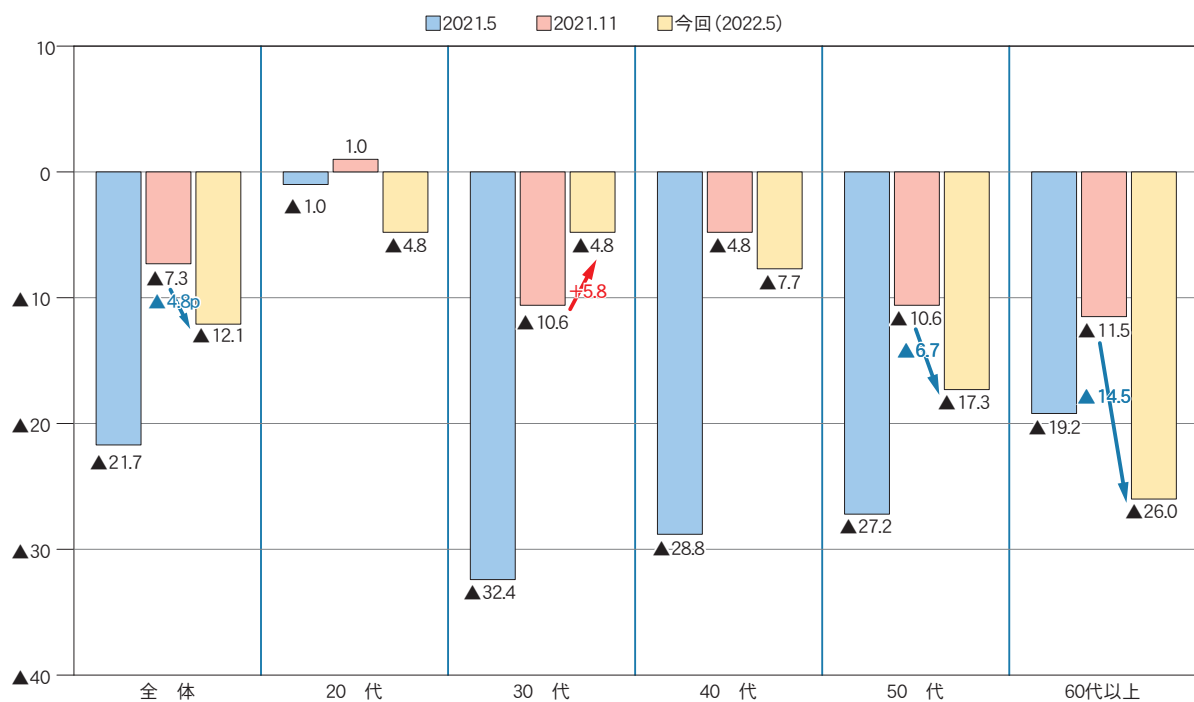
今後半年間の収入見通しは▲12.1と前回（▲7.3）に比べ4.8p低下（図表4）。全年代でマイナス域という結果となり、特に50代は▲17.3（前回比▲6.7p）、60代以上は▲26.0（同▲14.5p）と減少幅が大きくなっている。

収入の見通しが「減りそう」の自由コメントには、コロナ禍をきっかけとした「残業代」の減少や「物価高騰に伴い会社の利益率が悪化することによる給与の減少」などが見られる（図表5）。また、その他の収入見通しが「減りそう」な要因としてテキストマイニング（共起ネットワーク^{*}）から、「定年退職」、結婚をきっかけとした「パート」への転換や「転職」による収入減少が読み取れる。

一方、収入の見通しが「増えそう」の自由コメントには、「昇進」、「副業」、「年金の一部支給が始まった」などが見られる。また、テキストマイニングからは、「パート」を増やす、もしくは新しく「始める」、や「転職」などによる収入増が見て取れる。

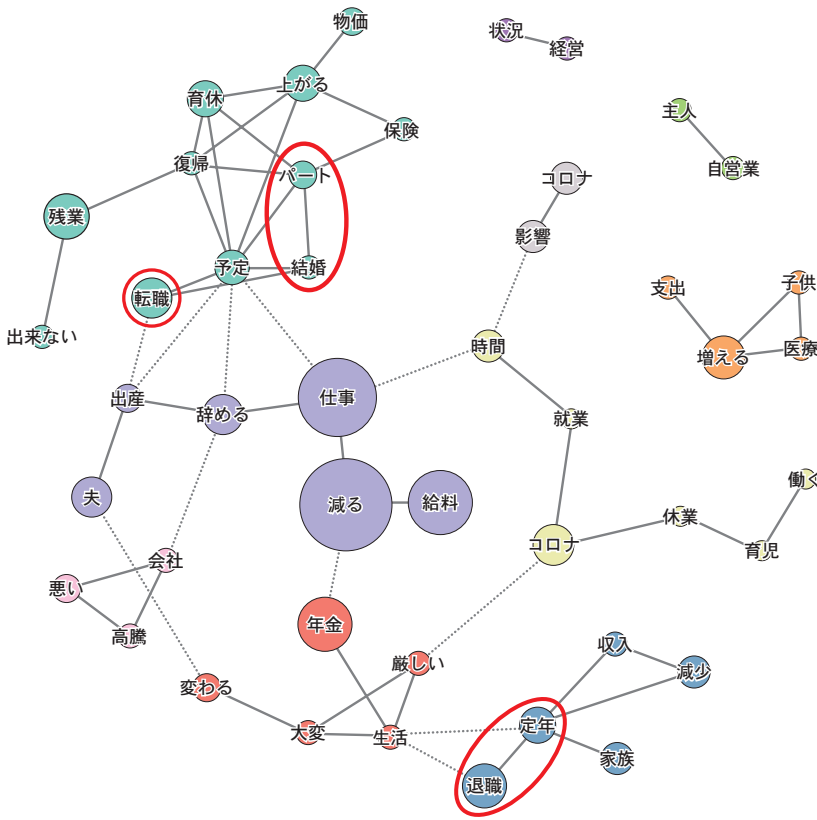
^{*}共起ネットワーク：単語が共通に出現する関係（共起関係）を円と線で表示した図。どのような単語が同じコメント内に出現しやすいかを感覚的に把握できる。

図表4 収入の見通しDI（「増えそう」-「減りそう」）



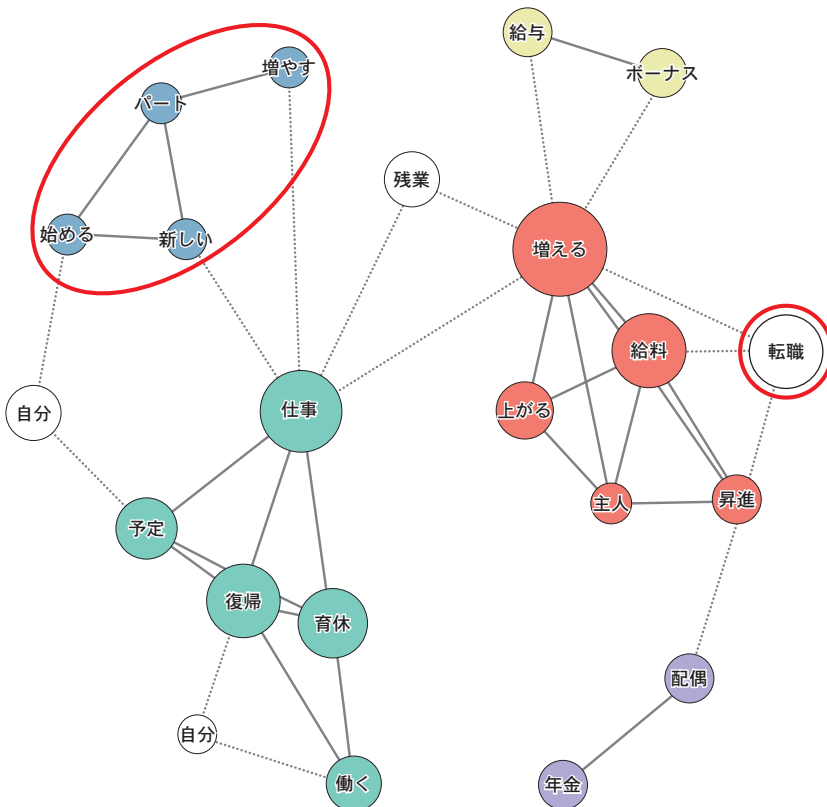
図表5 収入見通しの自由コメントの分析

【収入が「減りそう」と回答した人】



年代	自由コメント
20代	産休、育休に入るから。 結婚予定があり、仕事をパートに変えたから。
30代	コロナの影響で収入が減ったままで、今のところ収入が増える気配が全くないため。
40代	残業代が減るので。
50代	残業が減ったので。
60代以上	食品の価格の高騰、流通費の高騰により会社の利益率が悪くなり、その分給与の減少があると思うから。 定年退職したので。年金生活に入るの。

【収入が「増えそう」と回答した人】



年代	自由コメント
20代	育休から仕事復帰するため。 転職するため。
30代	昇進したから。
40代	家族が副業を始めたから。 パートの時間を増やす。
50代	主人の昇進で給料が増えるため。
60代以上	年金が一部支給されるようになるから。

資料：KH Coderを用いて当研究所作成

(2) 支出意欲の見通し

- 今後半年間の支出意欲は▲35.2。前回 (▲23.5) に比べて▲11.7pと大きく低下。
- 物価上昇が、支出意欲に影響している。

今後半年間の支出意欲の見通しは▲35.2と前回 (▲23.5) に比べ11.7p低下 (図表6)。特に、40代は前回比▲18.3pの▲34.6で減少幅が最大となっている。

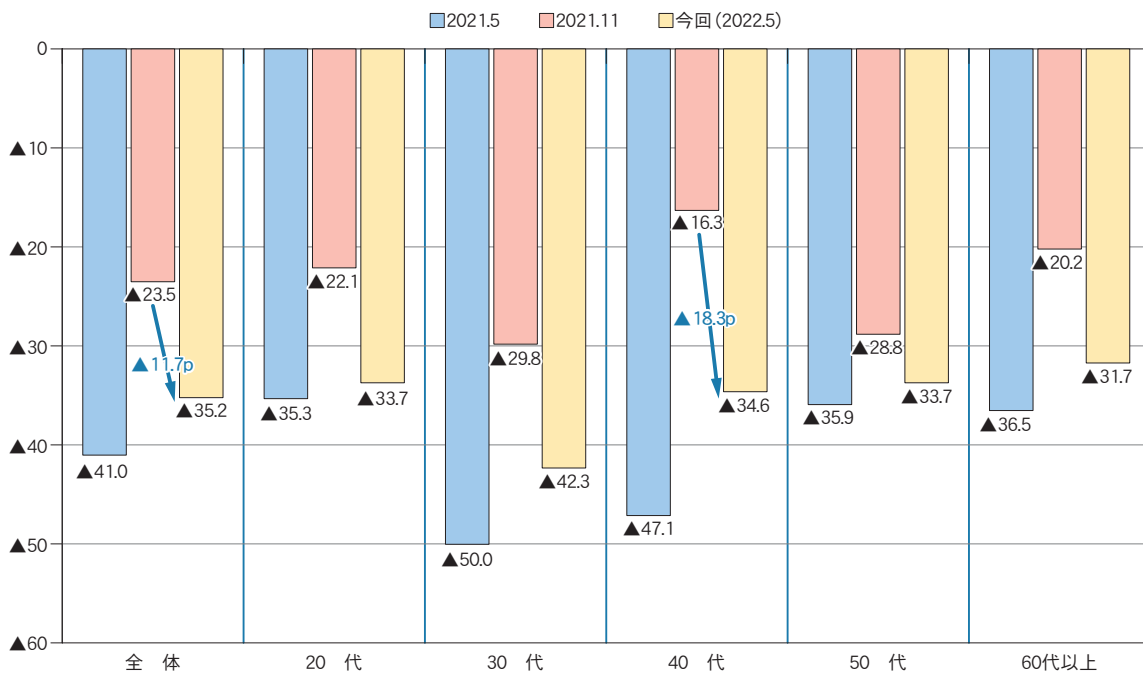
「引き締める」、「少し引き締める」の自由コメントには20代を除く全世代で、「物価上昇」についての回答が見られ、物価上昇が支出意欲に大きく影響していると考えられる (図表7)。また、テキストマイニングからは、「将来不安」が支出の引き締め要因になっていることが読み取れる。

一方、「緩める」「少し緩める」の自由コメントからは、消費者のマインドとしてコロナ禍が一旦の落ち着きを見せたと認識していることがうかがえる。それに伴い、これまで我慢していた「旅行」や「外出」などの支出意欲が高まっているものと思われる。

ただし、感染者数だけで見ると調査時点では連日数百人単位で推移していることから、コロナ禍が落ち着いたというよりは、withコロナの生活様式が浸透しているのではないかと考えられる。

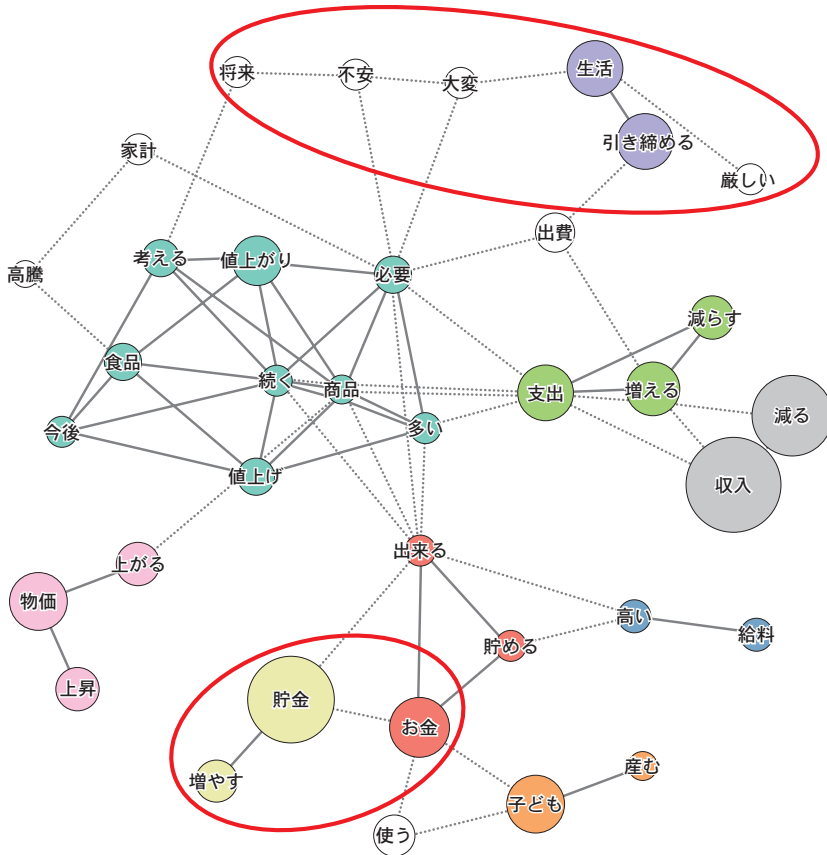
その他、テキストマイニングの結果からは、「子ども」のための支出を増やす意向も読み取れる。

図表6 支出意欲の見通しDI (「緩める」+「少し緩める」) - (「引き締める」+「少し引き締める」)



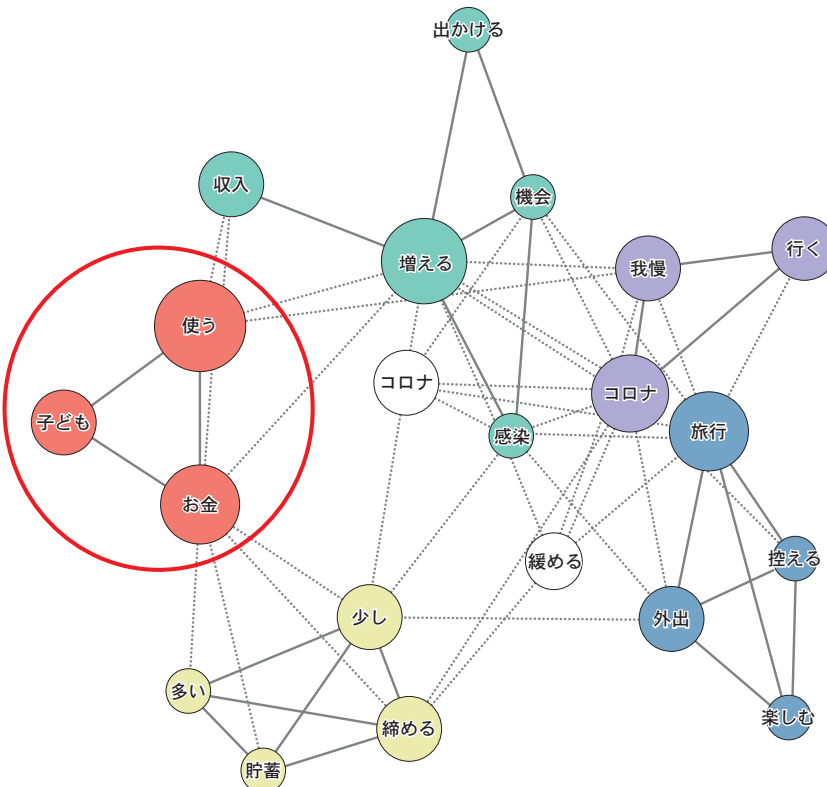
図表7 支出見通しの自由コメントの分析

【支出を「引き締める」「少し引き締める」と回答した人】



年代	自由コメント
20代	結婚関連で出費が増える。
	マイホーム計画を始めた。
30代	物価上昇が著しいのに収入に変化はないので。
	将来が不安だから。
40代	給料は変わらないのに物価が高すぎるから。
	貯金に回したいから。
50代	食品やガソリンなどの価格が高騰しているの。
60代以上	食品など値上がりしているから。

【支出を「緩める」「少し緩める」と回答した人】



年代	自由コメント
20代	コロナが落ち着いて出掛けようと思うため。
30代	今までコロナで我慢していたからどこかに行きたい。
	子どもにどんどんお金を使ってあげたい。
40代	今までコロナで我慢していた旅行などに行きたいから。
50代	色々とお出かけられる機会が増えそうだから。
60代以上	コロナが少し収まってきたので外食したりお出かけしたい。

資料：KH Coderを用いて当研究所作成

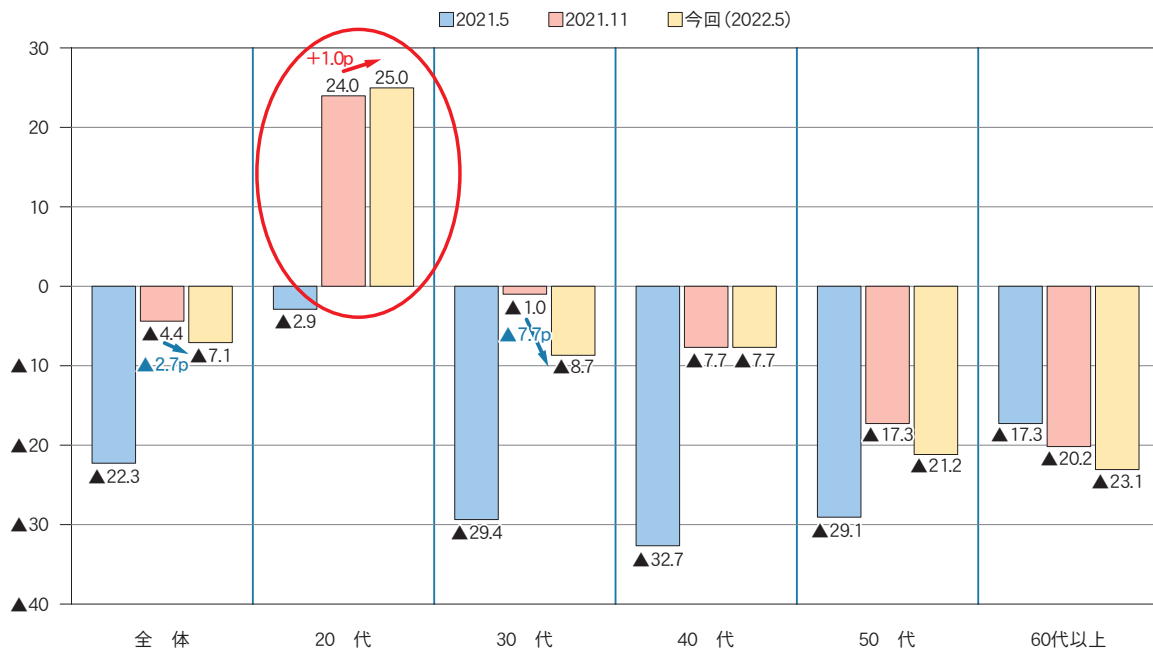
(3)暮らし向きの見通し

- 暮らし向きの見通しは、▲7.1と前回 (▲4.4) に比べて2.7p悪化。
- 20代の見通しDIは心理的側面の影響を大きく受け、2回連続で高水準。

今後半年間の暮らし向きの見通しは▲7.1と前回 (▲4.4) に比べ2.7p悪化 (図表8)。年代別に見ると、30代は▲8.7 (前回比▲7.7p) で減少幅が特に大きい。20代は唯一、暮らし向きが2回連続で上昇している。

暮らし向きが「良くなる」、「やや良くなる」と回答した20代のテキストマイニングおよび自由コメントでは、他の世代にはあまり見られなかった特徴的なワードとして、「結婚」や「新しい環境」、「新しい家族」などがみられた (図表9)。これらのことから、20代における暮らし向きの見通しの高まりには、心理的側面が大きく影響しているようだ。

図表8 暮らし向きの見通しDI (「良くなる」+「やや良くなる」) - (「悪くなる」+「やや悪くなる」)



自由コメント (20代抜粋)

結婚を予定しているから。

子育ての不安はあるものの新しい家族を迎え、一緒に暮らす楽しみもあるから。

子どもが産まれるのが楽しみだから。

結婚するから。2人暮らしで幸せな気持ちでいることが増えるため。

新しい環境になるため。

